

全国連盟通信

第32期 No.6

2017年4月26日

発行責任者
石川正三



新日本スポーツ連盟

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル402

TEL: 03-3986-5401 FAX: 03-3986-5403

Eメール: zenkoku@njsf.net URL http://www.njsf.net

つなごう 支援の輪

スポーツ連盟の 「メリット」を考えよう!!

いま、スポーツ連盟は、連盟組織・会員の拡大に全力をあげて取り組むことをよびかけています。自主目標を基本に、全国的には10%、4,500人を増やすことが目標です。4月8日、9日の理事会では、この方針をどのように具体化するか、真剣な議論を行いました。

理事会では、増やしているプラスの面だけでなく、大きく減少したところ、長期に停滞しているところなどマイナスの面も直視し、すべての連盟が元気になる取り組みにすることも確認されました。

こうした討論の中で、少なくない加盟クラブ・チームの方から「スポーツ連盟に加盟しているメリットは何か？」などの疑問が出されており、これらにどう答えればいいのかという悩みが出されていました。この点について、みなさんとともに考えてみたいと思います。

「スポーツ連盟は スポーツの楽しさを共有し広げ 豊かにする」

スポーツ連盟は発足時から50数年間、何よりも大切にしてきたことは、自らスポーツを楽しむ、その楽しさをすべての人々に広げるとともに、楽しさの内容やレベルをさらに豊かにすることに努力してきたことです。クラブの運営を支えたり、競技会を準備し運営したり、会場・施設の確保や自治体への増設・整備を働きかけてきました。これらの活動すべてが、加盟クラブや会員がスポーツの楽しさを共

有し豊かにすることとかたく結びついて、ひとり一人の自発的な活動として協力しあって継続されているのだと思います。そこには、お金だけでは得ることのできないスポーツ活動の価値があるのではないのでしょうか。だからこそ、お互いに協力し励まし合い、がんばってきているのだと思います。

こうしたみなさんの現在の活動自体が「スポーツきみが主人公」の精神で作りに上げてきたスポーツ連盟の「メリット」ではないのでしょうか。

現在、普通に働き生きていくことさえ困難なくらしをもたらしている政治の貧困によって、私たちが作り上げてきたスポーツを楽しむ「メリット」が奪われようとしています。みんなで作ってきた価値ある「メリット」を守り豊かにするためにも連盟組織・会員の拡大に知恵と力を発揮しましょう。

(全国連盟会長 和食昭夫)

▼スポーツ連盟の各地の活動から



①発足から1年-三重卓球協議会 ②京都ロードレースにエリック・ワイナイナ選手(シドニー五輪銀メダリスト)が出演 ③大阪ビビタに65名 ④宮城・あしがる会(ウォーキング)が10周年

春満開の東京で32期第5回理事会が、4月8～9日開催されました。

議論された内容と今後の活動方針

①第1回評議員会(2/11-12)の総括

この評議員会で確認された「10%、4500人の組織拡大」は、その後、各地でも論議され、全国連盟にも意見が寄せられるなど、受けとめられている。今後も、こうした論議が進み、取り組みが具体化するよう促進する。

②第31回全国スポーツ祭典(2016年)の総括

「九州復興に募金として支出する」「財政は、切り詰めた会計をした内容が現れ、目途が立った。グッズは赤字出さずに済んだ」「ポスター、メダル、表彰状に対して厳しい意見があった。どこに責任があるかについて、全国連盟、主管、全国種目の関係が曖昧だった。いずれかの段階で確認が必要」「開会式についてはスポーツ祭典のルール化をする」「参加者集計を統一すること必要」など総括した(4頁参照)。

③第32回全国スポーツ祭典(2018年)

主管について、「東北ブロック主管」を確認し、第1回実行委員会を6月3日AM10時半から、スポーツ連盟会議室で開催することとなった。

④第33回全国スポーツ祭典(2020年)

東京オリンピック終了後の期間だが、予選大会会場確保が問題となるため、オリンピック開催準備期間や元に戻す期間などを短くし、影響を最低限にする交渉が必要になる。6月13日の関東ブロック会議での検討を要請する。

⑤全国組織拡大交流集会(6/4-5)

評議員会後、京都、東京、千葉、全国テニス協などの総会で討議されている。福岡、兵庫などでの討議内容で前進面と課題両面が出されていること。こうしたことから現段階でも前進している組織から学ぶことが必要。この集会の成功に向けて「組織拡大調査」アンケートを実施(5月15日締切)する。

⑥第2期「スポーツ基本計画」への対応

総務省からは「管理統合計画」が出され、基本計画には施設の整備計画が欠如し、市民のスポーツ実施率を高めると言いながら施設整備計画と予算計画がないことから、全国的に問題を明確にして運動化が

必要。公共施設は「長寿命化計画」の要請が必要。兵庫からは「廃校使用要請」実施。学校だけでなく使われていない施設での使用の要請が出され、依然として施設問題は重要課題になっている下で、地方とも連携して定期化する取り組みとしていく。

⑦2020オリンピック・パラリンピック開催

引き続きオリ・パラ都民の会と共同し、市民スポーツへの影響が出ていることを重視し、東京都や関係自治体に働きかける。

⑧2017年反核・平和の取り組み

日本非核宣言自治体協議会や平和首長会議からの後援とメッセージが届き、こうしたことを力に、核兵器廃絶に向けた「国連会議」への支援になるよう取り組む。今年の「東京-広島コース」の通し行進者に滋賀県連盟の西田重好さんが決定している。また、原水協の要請で、「広島-長崎コース」に韓国体育市民連帯から2人が参加予定。

⑨国際活動

3月25日、フランスのダブルダッチチームの来日時に懇談を実施(6頁参照)。神奈川、大阪に次いで東京でのビビチタ開催が決定し、準備されている。

「2020年東京-広島-長崎1500km反核・平和マラソン」は、フランス、韓国を招待することは福岡県連盟も了解しているが、「広島-長崎」を人的、財政面での全国連盟としての位置付けが必要になっている。

⑩「スポーツのひろば」・広報

多くの方に紙面づくりに携わってもらうことで多様な内容にしていく方向が提起された。東京卓球協からは「東京体育館が使えなくなるので、問題点を掲載してもらい、運動として増やしたい」という意見。購読を呼びかけるアクション件数を増やするとの経験も出され、オーバー2500部を目指す。

全国連盟ホームページは、5月連休明けにリニューアル予定。メールマガジン配信は、内容はリンク集を考えている。

⑪第33回定期総会に向けて

「第33期機構・役員検討委員会」が設置され、来期の組織体制について検討を始める。

以上の内容について討議、決定し、理事会が執行に責任をもって取り組んでいくこととなりました。

「現状維持」から脱却するためには？

スポーツ連盟の会員数はここ10年「現状維持」で推移しています。この状況を打破して、一歩前進の転機となるような試み、工夫がどの組織も必要です。なぜ大きな組織が必要か？ それは愛好者の要求に応え、実現させて、より多くの人にスポーツの楽しさを広げるためです。

組織が大きくなれば 行政を動かす力になる

現在、公共スポーツ施設は、ピーク時に比べ約20%減少しているという報告があります。また東京五輪の影響で都内の施設では改修等ですでに利用の制限が始まっています。このような状況は「いつでもどこでも だれもがスポーツ」の環境とは程遠いものです。スポーツ連盟の要求を実現する力はこのようなときにも発揮します。大きな組織であればこそ、現状を打破し行政を動かし、より多くのスポーツ愛好者の要求を実現させることが可能です。

多くの組織では、日常的に大会を開催し、多くのスポーツ愛好者の要求に応じています。しかし、この大会参加者に加盟してもらおうとなると、なかなか

難しいとの問題があります。また運営面でも5年先、10年先を担っていく人材が見つからず、世代継承する準備ができていない組織も非常に多い状況です。

「大相談会」で仲間づくりの輪を！

こうした課題や皆さんから提起された悩みなどを話し合い、前進への流れを作り上げる「組織拡大交流集会」が6月に開催されます。組織拡大での成功例の報告や、それぞれの組織が抱える悩みについて、どのような工夫や解決方法があるかを討論する分散会、種目組織と地域組織の交流によって新たな組織誕生へのきっかけづくりとなるような大相談会の開催を行います。

組織間の交流で知恵を出し合い情報の共有を行い、参加者全員の意思統一による前進に向けた大きな流れが生まれればと思います。

この会議を契機に、スポーツ連盟の魅力をより多くの人に発信し、仲間づくりの輪を広げていきましょう。そして今より一回り大きな組織へと花が咲くようともに頑張りましょう。

(スポーツ活動・組織局 宮内泰明)

組織拡大交流集会2017 **10%増** **4500人拡大**

テーマ

「現状維持」から

「前進」へ

大相談会

日にち 2017年

6月3日 **土** ~ **4日** **日**

(13:00受付 18:00終了) (9:30受付 15:00終了)

会場 東京都

豊島区生活産業プラザ

3日：8F 多目的ホール (池袋駅 徒歩7分)
4日：3F 大会議室

前進に向けて
チャレンジしましょう！



この組織拡大交流集会は、参加組織が「現状打破」に向けて前進し、方向性を持つ集会として、参加者全員が交流し学び、共通認識として10%増の目標に向かう決起集会という位置づけで開催します。是非皆さんご参加ください。

東北・九州復興支援 第31回全国スポーツ祭典のまとめ



今祭典は東日本大震災から5年経過し復興も道半ば、そして昨年4月に発生しました熊本地方を震源とする地震の早期復興を願い、「東北・九州復興支援」の一環として取り組んできました。この祭典を通じて、スポーツの力で被災地を応援してきました。11月に宮城県で開催された水泳競技大会とサッカー競技大会(シニア)の2大会に運営費の補助を行い、熊本には募金を送ることになりました。

全国祭典のひろがり、

ミックスバレーボール大会では連盟組織のない福島県いわき市で、地元チームが実行委員会をつくって大会を開催し、代表チームが全国祭典に出場するなど、連盟組織や種目組織がない都道府県でも全国祭典に出場するチームや選手が増えてきている今、今後の協力関係等をアプローチしていくことが急務です。その場合は、空白組織対策事業助成制度等を活用し、連盟組織と種目組織が一丸となって開拓していかなければなりません。

また、兵庫県で開催されたゴルフ大会では、大会終了後、今まで会員でなかった参加者が会員になってくれるなど宣伝効果がありました。

競技・レベルの点では、

種目組織がしっかり準備し大会を開催しているので、回数を重ねるごとにレベルの高い選手・チームが出場してくれています。陸上大会では5種目で7人の大会新記録や、水泳大会でも大会記録の更新などがありました。卓球大会一般の部には、張一博選手(全日本選手権準優勝)が団体戦に出場したり、男子バレーボール大会では、国体強化チームが出場していたりと非常に盛り上がった大会になりました。

協力・共同の広がり

ソフトボール大会では、地元の可児市ソフトボール協会との共同開催をすることができ、連盟組織と体育協会加盟団体が共催する初の大会となりました。また軟式野球大会での開会式では、地元の高校の吹奏楽部とバトン部が参加してくださり入場行進の演奏やプラカードガール、そしてバトン演技など大会に華を添えてくれました。

そして男子バレーボール大会が開催された滋賀県湖南市では、大会終了後、お礼のあいさつに行政に出向いたところ、今後も是非とも体育館を利用してほしいと調整会議に出席させて頂き、滋賀県連盟の卓球協議会で体育館を利用させて頂くことになりました。

復興支援グッズの販売状況

復興支援グッズのシリコンバンドは、祭典の賞品や参加賞にするなどいろいろなかたちで取り組まれ、都道府県連盟や種目組織の総会などでも購入して頂き協力して頂きました。

しかし、目標個数を達成することができず、今後の祭典グッズのあり方を見直さなければいけないと思います。まだ、在庫がございますので引き続きご協力の程、宜しくお願いいたします。

まとめ

関西ブロックを主管とする第31回スポーツ祭典も皆さまのご協力の元、無事に終了致しました。本当にありがとうございました。

今後の課題等を関西ブロックや各種目組織から収集し、次回の東北ブロックを主管とする第32回スポーツ祭典に引き継ぎしていきたいと思っております。そして第32回全国スポーツ祭典が更に大きな祭典となり成功することを祈っております。

(第31回全国スポーツ祭典事務局長・関戸弘充)

反核平和マラソン

「反核平和マラソン」は競走をするマラソンではありません。みんなで元気に走って、「戦争反対」「核兵器廃絶」をアピールする、ランナーの平和行動です。

2017

日本非核宣言自治体協議会、平和首長会議から後援・メッセージをいただきました

2017年度「反核・平和マラソン」を開催されるにあたり、日本非核宣言自治体協議会を代表してメッセージをお送りいたします。

皆様におかれましては、“スポーツは平和とともに”をスローガンに連帯の輪を広げ、昨年の「反核・平和マラソン」には、2,161人が参加されたとお聞きしております。今年もまた、全国各地で開催が予定されており、関係者の皆様のご尽力に心から敬意を表します。

私ども日本非核宣言自治体協議会は、地域住民の安全を守り、世界恒久平和の実現に寄与することが自治体の責務であるという視点から、非核宣言を行った自治体が連携して1984年に設立し、現在、全国323の自治体が加盟しております。

私たちが暮らす北東アジア地域では、北朝鮮の核開発をめぐって緊張が高まっており、当協議会では、住民が安心して暮らせる地域社会の実現のため、「北東アジア非核兵器地帯」の創設の呼びかけや被爆の実相を伝えるために原爆展の開催の支援などをはじめとした核兵器廃絶を目指した取り組みを行ってきました。

当協議会は、これからも市民の皆様と連携を図りながら、「核兵器のない世界」の実現に向けて粘り強い取り組みを続けていきたいと考えています。

「反核・平和マラソン」に参加される皆様におかれましても、核兵器の恐ろしさ及び非人道性への理解を深め、一人でも多くの市民の皆様とともに世界恒久平和の実現に向けて、核兵器廃絶への取り組みを続けられますことを期待いたします。

最後に、「反核・平和マラソン」のご成功と、参加される皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げます。

平成29年4月10日

日本非核宣言自治体協議会 会長(長崎市長) 田上 富久



「2017年度反核・平和マラソン」が開催されるにあたり、メッセージをお送りいたします。

1945年8月6日、一発の原子爆弾が広島に放たれました。この「絶対悪」は一瞬のうちに街を焼き尽くし、国籍や信条を問わず子供からお年寄りまで罪もない多くの人々を殺りくし、その年の暮れまでに14万もの尊い命を奪いました。辛うじて生き延びた人々も、放射線による障害や差別・偏見に苦しみ、心身に負った深い傷は今なお消えることはありません。

あれから72年、依然として世界には、あの惨禍をもたらした原爆の威力をはるかに上回り、地球そのものを被壊しかねない1万5,000発を超える核兵器が存在します。私たちは、この現実を前にしたとき、非人道性の極みである「絶対悪」をこの世から消し去る道筋をつけるため、ヒロシマの思いを基に、「情熱」を持って「連帯」し、更なる行動を起こさなければなりません。そして、多様な価値観を認め合いながら、「共に生きる」世界を目指し努力を重ねなければなりません。

昨年5月、現職の米国大統領として初めて広島を訪れたオバマ大統領は、被爆者の「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という心からの叫びを受け止め、「私の国と同様、核を保有する国々は、恐怖の論理から逃れ、核兵器のない世界を追求する勇気を持たなければならない」と、核兵器廃絶に向けた決意を改めて示されました。

核兵器のない未来を創っていくのは、為政者を始め、私たち一人一人の「情熱」であり、平和への思いを共有し、「連帯」することから生まれる具体的な行動です。そうした意味からも、皆様が核兵器のない平和な世界の実現に向けて「2017年度反核・平和マラソン」を開催されますことは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

162か国・地域の7,200を超える加盟都市で構成される平和首長会議も、世界中の人々との「連帯」をより強固なものとし、核兵器廃絶に向けた国際的な機運を高めるために「情熱」を持って取り組んでいく所存です。

皆様には、今後とも「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、共に力を尽くし行動していただくことを心から期待しています。

終わりに、「2017年度反核・平和マラソン」の御成功と御参加の皆様のご健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

平成29年(2017年)4月18日

平和首長会議会長 広島市長 松井 一實

フランスから2団体が来日 **ダブルダッチで国際交流**

ダブルダッチというスポーツをご存知ですか？それは2本のロープを使った縄跳びです。ダブルダッチを体験したことのある方はそう多くないと思いますが、この度フランスから来日していた8名の選手・スタッフの方々と3月25日に都内で懇談する機会がありました。

軽快なダンスミュージックのリズムに乗って、半周ずつずらして回転する2本のロープの内側で様々な技が繰り広げられる様子は想像していたよりもはるかに惹きつけられました。

メンバー代表のアリ (Ali Sid Atmane) さんの話によると、彼自身は以前、競技的志向の強くまた審判の判定などに問題の多いダブルダッチの協会に所属していたようです。しかし、アリさんとしては、より教育的・文化的な観点からのアプローチに関心があり、ダブルダッチを通して友好を深め、文化交流や交換留学、人間性の向上・教育的側面を持ち合わせるプログラムを実施していきたいとの思いが



あったようです。そこで独自にダブルダッチの団体を設立し、その代表としてFSGTに加盟し、1年半ほど前からその本部事務所に勤務しているとのことでした。

彼らのプロジェクトは、スポーツ連盟の活動理念とも共通します。今回の懇談を出発点として互いに知恵を出し合い、メールなどで情報交換をしていながら交流の機会を探っていくことに確認しました。(国際活動局 長井健治)

No Nukes!

飛び入り OK!

憲法を守ろう

「ヒバクシャ国際署名」を国連へ届けよう

国民平和 大行進 2017

「スポーツは平和とともに」の旗をつなごう

新日本スポーツ連盟では、だれもが気軽に参加できる平和活動として、ウォーキングクラブをはじめ都道府県連盟、各種目組織がこの国民平和大行進に参加しています。

滋 賀県勤労者スキー協議会に所属の西田重好さん(原水爆禁止日本協議会・草津市平和委員会)が、通し行進者として「東京→広島コース」を歩きます。

歌いながら歩く —西田さんの決意

「今年は憲法施行70周年、平和行進60年の節目の年。笠木透さんの『平和の歌』『君が明日に生きる子どもなら』『これがすべての終わりとしても』この三つのCDをうたいながら歩きます」(「しんぶん赤旗」3月25日より)

最新情報はWebで

ホームページ www.antiatom.org 平和行進 検索

フェイスブック [facebook.com/heiwakoshin](https://www.facebook.com/heiwakoshin)



みんなで創る「ひろば」

多くの方からの投稿を大募集！

「スポーツのひろば」は、「みんなで創る『ひろば』」をコンセプトにした誌面を目指して、連盟関係者・読者の方々からの投稿を大募集しています。各地の活動レポート、写真、大会記録、近況、いま考えていることなど…是非記事を送ってください。

(広報局 佐藤信樹)

「ひろば」アンケート

スポーツは… する派？ or 見る派？

スポーツをするのと見るのでは、どちらが好きですか？「する派or見る派」「(できれば)その理由」「氏名」「種目」「お住まいの都道府県」を明記のうえ、ひろば編集部へ送ってください。

ひろば編集部へのメールは

 hiroba@njsf.net



全国連盟HPがリニューアル！



↑全国連盟ホームページリニューアル版
(2017年5月予定)

スマホ対応版→

スポーツ科学研究所の今後の取り組み

スポーツ科学研究所第5回研究会は、3月22日(水)・23日(木)に「としま南池袋ミーティングルーム」において開催されました。

今回は、「第2期スポーツ基本計画・学習指導要領改訂と体育・スポーツ実践・運動の課題」でシンポジウムを実施。研究会後の運営委員会では、次の研究会を9月2日・3日に京都近辺で開催すること、5月中旬に編集委員会を開き、研究所年報『現代スポーツ研究』第2号の内容と発行時期について検討することが確認されました。

進む「スポーツの産業化」

第6回研究会では、講演とともにシンポジウムを開催します。テーマは『生の管理様式としての新自由主義』のもとでのスポーツの検討～現代スポーツの性格分析～の予定。近年、日本を含めて世界的に国民生活のかなりの領域に入り込んでいる「新自由主義経済」、つまり福祉も教育もスポーツも市場に組み込み、対価を払ってサービスを購入するという産業化が進行しています。安倍政権が『日本再興

戦略』の中で「スポーツの成長産業化」を重視しているのもその現れです。

スポーツは受益者負担なのか？

こうした新自由主義的政策は、一面で冷徹な弱者切り捨ての政策であり、各層の労働者、青年、婦人、高齢者による反安倍政権の社会運動が高揚します。こうした運動を押しとどめ、分断させるのが新自由主義的政策の別の一面である「生(人間)の管理様式」の現代的転換でしょう。

近年、健康・スポーツの領域でも、受益者負担、国の財政支援(公助)なき自助・共助、NPOなどのボランティア組織の活用などが進められています。ここでは、国家権力が直接介入することなく、個人、クラブ、統括団体、地方自治体の自己責任で問題の解決策を見つけ出させようとする新たな「生の管理様式」が導入されていますが、この動向を見定めようというのが第6回研究会の趣旨です。多くの方の参加をお待ちしています。

(スポーツ科学研究所 青沼裕之)

第32期全国会議及び主要事業予定一覧（2017年5月～2018年3月）

月 日	全国会議・事業	都道府県連盟・全国種目組織	
【2017年】			
5月	1日	「スポーツのひろば」6月号発行	
	6日	国民平和大行進スタート	
	13日		滋賀県連盟総会
	14日		広島県連盟総会
	14日		和歌山平和マラソン(高野山～かつらぎ町)
	20～21日		全国選抜軟式野球大会(静岡市)
	28日		和歌山平和マラソン(かつらぎ町～和歌山城)
6月	3日	第32回全国スポーツ祭典第1回実行委員会	
	3～4日	組織拡大全国交流集会	(4日)愛知平和大好きマラソン
	5日	「スポーツのひろば」7・8月号発行	
	10日		神奈川県連盟総会
	10～11日		全国スキー協代表者会議
	13日	関東ブロック会議	
	17日		富山・石川反核平和マラソン
	18日		三重県連盟総会、京都反核平和マラソン
	24日		石川・福井反核平和マラソン
	25日		兵庫県連盟50周年記念式典
7月	2日		三重・大阪反核平和マラソン
	8～9日		神奈川反核平和マラソン
	9日		宮城・和歌山・兵庫反核平和マラソン
	15日		群馬反核平和マラソン
	16日		千葉反核平和マラソン
	16日		東京反核平和ウォーキング
	22日		東京反核平和マラソン
	23日		北九州反核平和マラソン
8月	1日	「スポーツのひろば」9月号発行	
	4日	2017反核平和スポーツのつどいin広島	
	5日	戦跡巡り 全国反核平和マラソン交流のタベ	
	6日	↓	愛知・石川反核平和マラソン
	6～8日		広島～長崎反核平和マラソン
	9日		滋賀反核平和マラソン
	26～27日	32期第6回理事会	第14回全国バドミントン大会 団体戦(静岡県磐田市)
9月	1日	「スポーツのひろば」10月号発行	
	2～3日		スポーツ科学研究所 第6回研究会(京都)
	9～10日	東海ブロックスポーツセミナー(愛知)	
	17～18日		ソフトボール東日本大会(静岡県)
	24日		石川県卓球大会・年代別(加賀市)
	30日～1日		全国ウォーキングフェスティバル(伊豆・踊子歩道)
10月	2日	「スポーツのひろば」11月号発行	
	14日		愛知県連盟創立50周年記念式典
	29日		サッカー-East Japan Cup(神奈川県藤沢市)
11月	1日	「スポーツのひろば」12月号発行	
	3日		全国年齢別水泳競技大会(東京)、福島反核平和マラソン
	4～5日		ソフトボール西日本大会(和歌山県)
	11～12日		全国6人制男女バレーボール大会(石川県金沢市)
	11～12日		第51回全国軟式野球大会(千葉) 全国テニス大会(埼玉県川口市)
	11～12日		全国シニアサッカー大会(大阪府堺市)
	12日		サッカー-West Japan Cup(大阪府堺市)
	25～26日		全国ミックスバレーボール大会(宮城県気仙沼市)
12月	2～3日		第14回全国競技大会 バドミントン大会 個人戦(愛知県愛西市)
	2～3日		第53回全国卓球選手権大会 一般の部(福岡県北九州市)
	10日		愛知高蔵寺弾薬庫一周平和マラソン
	9～10日	32期第7回理事会	
【2018年】			
1月	10～11日	全国縦断新春マラソン	
	27～28日		第53回全国卓球選手権大会 年代別の部(愛知県豊田市)
2月	10～11日	32期第2回評議員会・第8回理事会	
	25日		サッカー-Final Cup(大阪府堺市)
3月	10～11日	33回定期全国総会	

* 追加・訂正があれば全国事務局まで随時ご連絡ください。